

読者の皆さんから届いたお便りなどを紹介します

# 外来生物は、 「入れない」「捨てない」「拡げない」!

ほかの国や地域から 野に いるところから



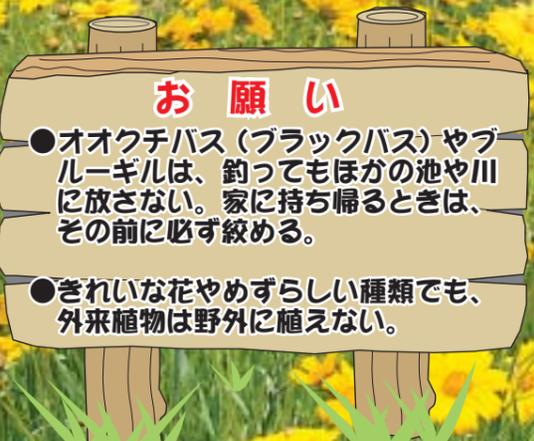
もともと日本にはいない動植物である外来生物が、持ち込まれたり入ったりして、その地域に住んでいた生きものを食べたり、生態系に悪影響を及ぼしたりしています。代表的なものとしては、ブラックバスやオオキンケイギクがあります。生態系だけでなく、農作物を食べたり、田を荒らしたりするものもあります。また、毒をもち、かんだり刺したりして人の生命や体に危険や害を与えるものもあります。

こうした外来生物の被害を防ぐためには、「入れない」「捨てない」「拡げない」の予防3原則をお願いします。

問い合わせ 環境課環境係 (☎92-8339)

**■特定外来生物とは**  
もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業に悪影響を与える96種を「特定外来生物」として法律で指定しています。特定外来生物は、飼う、育てる、栽培する、移動する、輸入する、売る、人に譲る、野外に放したり植えたりすることなどが、法律で規制されており、違反すると罰則があります。岡山県では次の19種が確認されており、市内でもこのうち10種程度が確認されています。

- 動物 ノートリア、アライグマ(以上、ほ乳類)、ソウシチョウ(鳥類)、カミツギガメ(は虫類)、ウシガエル(両生類)、オオクチバス、ブルーギル、カタヤシ(魚類)、セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ(クモ・サソリ類)
- 植物 ブラジルチドメグサ、アブラ・クリスタータ、オオフサモ、アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、ナルトサワギク、オオカワデジャ、ボタンウキクサ



写真は、ブルーギル(魚)とオオキンケイギク(花)



大数珠を持って町内を練り歩く子どもたち

**上** 原地区の伝統行事である百万遍を6月28日に行いました。百万遍は、毎年田植えが終わった時期に、無病息災や農作物の虫よけを祈願するため、江戸時代から続いている伝統行事です。地元の子どもたち約20人と保護者、地元の消防団員など総勢約50人が参加しました。子どもたちは長さ約11メートルの大数珠を持って興禅寺を出発。「ナンメードー、ナンメードー」と念仏を唱えながら、約2時間かけて地区内を練り歩きました。

山の頂上にあるお地藏さんがゴールです。最後まで多くの子どもたちが歩いたのは久々のことでした。子どもたちといっしょに地域の年中行事を行うことで、地域のみんなが季節を感じられ、ますます親睦を深めることができましたと思います。(神在地区市政モニター・茅野拓史さん・上原)

**総** 社市消費生活問題研究会では、会員7人による寸劇グループを作りました。老人クラブや各種団体の会合などに出向いて寸劇や講話を披露し、消費者が悪質商法に遭わないようにと、啓発活動に取り組んでいます。5月27日と6月2日には、総合福祉センターで一人暮らしの高齢者などに、「訪問販売と振り込め詐欺」の寸劇と、悪質商法のさまざまな手口やその対処法の講話をしました。寸劇はたいへんおもしろ



寸劇を演じるメンバー

くて分かりやすいと好評でした。これからもタイムリーな情報を得て、被害を防止するための知識を伝えていきたいと思えます。「絶対に被害に遭わないぞ!!」という意識を皆さんにもってほしいです。平成18年に「岡山県消費者啓発セミナーボランティア講師」として登録しました。寸劇や講話などの要望があれば、人権・まちづくり課に一声掛けください。(総社市消費生活問題研究会・寸劇グループ代表 角田輝子さん)

↓点線に沿って切り取ってください。(官製ハガキでも可)

**市民憲章**

わたくしたちは、美しい自然と豊かな吉備文化にぐくまれている総社市民です。このことに誇りと責任をもち明るく豊かなまちをつくることにつとめます。

- 1 郷土を大切に  
美しい環境をまもりましょう。
- 1 生涯学び  
明るい家庭をぎざぎざしましょう。
- 1 たがいに助け合い  
あたたかいまちをつくりましょう。

◎市の花/れんげ  
◎市の木/もみじ  
◎市の鳥/タンチョウ

## 地域住民が主体的に活動 小地域ケア会議 高齢者が安心して暮らせるようにと



秦地区の小地域ケア会議

小地域ケア会議は、地域住民が主体的に参加して、介護予防や自立支援に取り組むための協議をする場であり組織でもありません。平成18年、おおむね小学校区を単位に、市内に21か所で発足。地元の民生委員や福祉委員、自治会長、ケアマネージャー、介護施設の職員、社会福祉協議会や市の職員など、平均で15人程度のメンバーで構成されています。

会議は定期的に行われ、地域が抱える問題の話し合いや情報交換を行っています。そうしたなかから、高齢者の皆さんが安心して暮らせるようにと、地域住民による見守り活動や、地域で支え合うネットワークづくりなどに取り組んでいます。

住民が中心となって地域の問題を解決する仕組み作りができたことや、地域によるケアなど、小地域ケア会議の先進的な活動が評価され6月、「地域福祉優秀実践賞」を受賞しました。この賞は、全国各地の地域福祉活動のなかから、すぐれた実践例をもつ団体などに与えられます。

4) 問い合わせ 地域包括支援センター (☎92-824)